

ポプラ並木 札幌 小国 孝徳

さはさとは梢を渡る風さへも愛しみたりしを
ポプラ倒れぬ
何十枚もポプラ並木を画きたる今村哲二も惜
しみて居らむ
何事もなかりしごとく稲造は倒れしポプラに
ほぼえんでゐる
長き務め終へたるさまに横たはるポプラにや
さし秋の日ざしは
根こそぎに倒れしポプラの幾本かクレーンに
て再び秋空に立つ

通州事件 帯広 中野 知弘

靖国や海への突出仕放題 湧き上りくる思ひ
禁ぜず
キャブジョンにこの身ふるへり彼等なせし卑
劣、残虐 通州事件
人民元いつか変じて実落ちむ汚穢、悪臭街に
充つらぬ
穫農の休みとなりて歩みたり汽車こぬ四里を
終戦の朝
風時雨、台風それて錆色の秋樹わびしき阿寒
をめぐる

河骨の花 札幌 魚住あらた

花は終へみどりをしるましつと想ふ逝きたる
こゝろ河骨の花
一脈のなきあるこゝろつと想ふつづくたり
きにはなしの花
花終へしみどりをしるまは物の根に逝きたる
こゝろつづくたりき
ほろほろと八月の花河骨の花がありてぞ炎の
にほひする
海や山なかに眠れるものはるまつづくたり
き河骨の花

北海道医報人会誌序



アテネオリンピック 札幌 古屋 統

日本は丑三つ刻灼熱のアテネを走る野口みず
きは
わが野口あたま足腰時差ボケは無くてアテネ
の坂を駆け抜く
長嶋のすこし間抜けた註釈の無くて野球の負
けたじれつたさ
親馬鹿を映すカメラの配慮あれアニマル浜口
のファンにはなれぬ
前評判冴えぬが「金」を得て帰る後評判も穏
やかであれ

老健の夏 美唄 吉村 誠治

真夏日の続くこの年雪冷房の雪底つきて全館
ぬくし
常よりも飲む水ふやせと指示したり三十度越
ゆる暑さ続けり
八十人暑かりし夏乗り越へていと間もなしに
一人怪我する
介護うく入所者達に笑ふあり若き学生実習に
来て
実習の学生の白衣目に立ちて今日の施設はい
たく明るし

淘汰 札幌 山口 康徳

橋桁をヒョイと摘みし巨人の手考へ直し、そ
と下に置く
百年に一度といはる強き台風 倒れし木々は
自然淘汰ぞ
わが国ときそひし如きとつくにの台風につけ
られるその名タイパン
文字離れ進むと云ひつつ郊外に大型書店目白
押しとは
紅白の色ないませて秋風情以外に疾く下界に
降り着く